

平成16年9月25日
第6号

素流協 News

平成16年9月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

県産材認証制度の 定着化に向けて

◎はじめに

本年四月、「岩手県産材認証推進協議会」が設立され、県産材産地証明の仕組みができたことはご承知のことと思います。

この県産材認証制度については、素流協ニュース・第2号（平成十六年五月二十五日）の「今月のトピックス」欄でもその内容について説明したところであります。

また、素流協としては、今後この認証制度を素流協の事業の中に早期に定着させて、素流協が扱う素材はすべて生産地証明がなされたものにするを考えております。その理由は、顧客（素材の需要者）が素流協から供給される丸太が産地証明されていることを求めているからであります。このような事情を勘案して、素流協は産

地証明に関する手続き等の事務処理のあり方について検討・準備を進めてまいりました。この段階も

終了し、執行体制も整いましたので、十一月から具体的な産地証明の手続きを開始することにしたと考えております。この県産材認証に関する手続き、すなわち、素流協会員と素流協および販売先

（顧客）との間の具体的な証明行為の手順や必要な書類関係等については、別途素流協会員の皆様にお知らせすることに致しております。今回は、素流協が実施する県産材証明の処理手順の概要を述べることになります。

◎県産材証明の事務的手順
(1) 自分が生産した素材が県産材であることを証明するためには、まず「岩手県産材認証推進協議会」

の会員として加入して定められた証明手続きをとることが求められます。現在、大半の素流協会員は素流協を通じて推進協議会の会員として加入済みであります。未加入の会員については、早急に加入されることをお勧め致します。

(2) 県産材であることの証明行為として、証明用書類、証明印による処理手続きが必要になります。すでに推進協議会の会員になっている素流協会員については、それぞれ会員固有の証明印を素流協が受け取って預かっております。

この証明印は、後日、会員の手元に関係書類とともに送付致します。

(3) 県産材の証明行為は、厳正かつ正確なものでなければなりません。一方、処理手続きは、煩雑さを排除した簡素化されたものが要求されます。したがって、素流協会員が作成しなければならない書類は、「岩手県産材認証管理票」一枚だけあります。この管理票は、三つの部分に分かれ、それぞれ

の会員として加入して定められた証明手続きをとることが求められます。現在、大半の素流協会員は素流協を通じて推進協議会の会員として加入済みであります。未加入の会員については、早急に加入されることをお勧め致します。

(2) 県産材であることの証明行為として、証明用書類、証明印による処理手続きが必要になります。すでに推進協議会の会員になっている素流協会員については、それぞれ会員固有の証明印を素流協が受け取って預かっております。

この証明印は、後日、会員の手元に関係書類とともに送付致します。

(3) 県産材の証明行為は、厳正かつ正確なものでなければなりません。一方、処理手続きは、煩雑さを排除した簡素化されたものが要求されます。したがって、素流協会員が作成しなければならない書類は、「岩手県産材認証管理票」一枚だけあります。この管理票は、三つの部分に分かれ、それぞれ

れ「原木生産管理票」、「販売管理票」、「証明欄」であります。素流協会員が記述・押印（証明印）するのは、原木生産管理票と証明欄だけであります。

①原木生産管理票の記述内容は、生産者の住所・氏名（会社名）、伐採原木の内容（樹種別の長さ・本数・材積・伐採森林の所在地・生産月日）であります。

なお、この原木生産管理票は、山元からの一回の搬送単位（トラック一台等）毎に作成することになります。

②証明欄については、会員は生産者の押印欄に会員固有の証明印を押すだけの処理となります。

(4)県産材証明行為の手続きは、他にいくつもの処理事務がありますが、素流協会員の皆様が行わなければならないのは、基本的には前記の①、②だけであり、県産材認証推進協議会や販売先（合板工場等）との事務手続きは素流協が実行することになります。

◎おわりに

岩手県産材認証制度が、本年四月に関係者の大きな期待と関心を集めて発足しました。それは、岩手県の森林・林業・木材産業の活性化と県産木材・製品の需要拡大の起爆剤になることを願う思いが底流として存在しております。

新しい試みや制度がしっかりと定着するには、結構時間が掛かるものですし、その過程で修正・改良がなされるものであります。したがって、この県産材認証制度が真に実効あるものになるためには、もう少し時間と工夫が必要であり

ましよう。そのような状況下において、この制度の定着化を進める推進役は、素流協が担わなければならないと考えております。なぜならば、県産材証明行為の出発点は、素材生産事業でありますから岩手県下に広く事業を展開している素流協会員の存在があり、そして素材の主たる供給先がしっかりした経営体である合板工場であるからであります。すなわち、県産材認証制度の定着化に向けて素流協会

員―素流協―合板企業という強固な流通体系を有効に活用できることであります。素流協が県産材認証制度の定着化の推進役を務めると言った所以はここにあるので

今月のトピックス

素流協より

合板用材アカマツ
径級14cm以上に

素流協では平成十六年度下半期からの取引価格等についてホクヨープライウッド㈱並びに北日本プライウッド㈱と話し合いをしておりますが合意に達しそれぞれ十月一日より適用することとなりました。

その結果は次のとおりです。

一、取引価格について

別途文書によりお知らせのとおりです。

二、丸太径級の変更について

(変更された部分のみ)

アカマツ丸太

(一・九五m、四・〇m)

変更前 二〇cm 上

変更後 一四cm 上

三、サワグルミ丸太について

変更前は一・九五m、十八cm

あります。素流協会員の皆様には、県産材認証制度の意義をご理解のうえ、積極的な協力をお願いする次第であります。

上で一ランクの価格の販売となっておりますが丸太の品質にバラツキがあり、予想した製品歩止り確保が出来なかったことに最大の理由があります。

丸太の品質が確保されていればこのようなことはなかったろうと思われ、努力不足を痛感しております。

今後の出荷については、かつての割箸用材又はマッチ軸木用材として出荷していた当時の用材としてのイメージを想起され

一、曲りのない

二、大きな節の少ない

(節の大きさは10cm以下のもの二個まで)

丸太を出荷されますよう特段のご配慮をお願いいたします。

又、品質の問題はサワグルミ丸太だけでなく他の三樹種にも共通する課題であることから採材には十分の注意をお願いいたします。

ヒロシの独白

”森林の持つ 経済外効用“について



森林は、「経済外効用」を持つ
ているとよく云われるが、この言
葉の意味を簡潔に表現すると「値
段がつけられない、販売すること
ができないが人間にとって有益な
もの」ということである。

イギリスの経済学者・シューマッ
ハが今から三〇年以上も前「スモー

を認識することである」と云って

いるが、まさに至言である。私た
ちは、空気や河川水や土壌を無意
識かつ当然の如く消費し、それが
もたらす恩恵を享受しているわけ
であるが、その「市場に姿を見せ

ない財」の存在と恩恵を人間はよ
く承知することが大切だ、と彼は

云っているのである。

この「市場に姿を見せない財」

が人間に与える恩恵を経済外効用
と呼び、一般には売り買いできな
いものである。

さて、森林は、生育過程におい
て活発に光合成を行って炭酸ガス
を吸収し酸素を作り出している。
また、水を浄化し、貯留し、河川

の水量を平準化する。さらには山
崩れを防止する。このように森林
は、多くの有益な働きをしている
のである。すなわち、森林は、市
場には姿を見せないが人間が快適
に生活するために不可欠な「経済
外効用」を創造しているのである。
私たちは、常日頃、森林が持つて

いる公益的機能の大切さについて

話題にするが、この森林の公益的
機能の働きこそがまさに経済外効
用そのものなのである。

今さら云うまでもないが、森林
が多く賦存する場所は農山村地域
であるが、これらの地域では久し
く高齢化・過疎化が進行しており、
地場産業である林業も衰退を続け

て森林は活力を失っている。今で
も危機的状態であるのに今後もこ
のような状況が続くと、将来的に
見て、国民の生存が脅かされる事
態が生じないとも限らないのであ
る。

私は、わが国の農山村、我らの
偉大な田舎が衰退しつくした時は、
日本の終わりであると強く感じて
いるのである。

今こそ農山村の活性化と森林・
林業の積極的な振興が不可欠であ
る。



ゼロ災でいこう

ヨシ!

さあ、「林材業ゼロ災運動」に取り組もう!!

8月の販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した合板用丸太の平成16年8月の販売実績は下表の通りです。

8月はお盆休みもあったことから、出荷量がやや減少し4,200m³でしたが、年間計画49,000m³÷12月=4,083m³を3カ月連続してクリアしたことから計画量達成に益々明るさを増しております。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	累計 m ³	出荷割合	
			ホクヨー プライ ウッド 株	北日本 プラ イ ウ ッ ド 株			樹種 毎 %	径級 毎 %
スギ	1.9	14上	545	481	1,026	7,813		66.1
	4.0	14上	278	358	636	4,012		33.9
	計		823	839	1,662	11,825	51.1	100.0
カラマツ	1.9	14上	1,676	228	1,904	6,740		82.1
	4.0	14上	36	94	130	1,468		17.9
	計		1,712	322	2,034	8,208	35.5	100.0
アカマツ	1.9	16上	481	48	529	2,026		71.6
	4.0	16上	26	5	31	804		28.4
	計		507	53	560	2,830	12.2	100.0
サワグルミ	1.9	20上				262	1.2	100.0
合計			3,042	1,214	4,256	23,125	100.0	100.0

編集後記

▽今年は何年にもなく台風が本土へ上陸する数が多く、幾人もの尊い人命を失い、各般にわたる被害も甚大である。ニュースによると、降雨量は一時間当たりの量でも連続累積量でも記録的な多さである。各地で頻発している山地崩壊は、土壌や樹木の根茎による保水能力の限界を超えた結果であろうと考えたいのだが、濁流を流される木や海にまで押し流されて海岸に打ち寄せられた樹木や丸太をテレビの映像で見ると、山元における間伐が適切に実行されていたのだろうか、切り捨て間伐の林内に放置されていた残材が流下したのではないかと考えたりしたのである。森林・林業にも携わっている編集子のゆえなき心配症があらわれたのかもしれない。

▽最近「多様化」という言葉がはやりである。森林のもつ多様な機能の重要性については広く認識されるようになったが、まさに森林に対する認識の多様化といったところであろう。ところで、阿久悠がある雑誌の対談の中で「いまの世の中は価値観が多様になったというのにはウソっぽく、ひとつの価値観の寿命が短くなっただけですよ。ぼくは、それは『価値観の回転寿司化』といっています」と述べている。さて、森林の多様な機能が重要であるという認識の広がりも回転寿司的の寿命でないことを願うのみである。